

令和7年度 授業創造プラン

6年

教科	児童の実態（Gテスト／学力調査を含む）	具体的な取組
国語科	【全国学力調査の結果より】 「思考力・判断力・表現力等」を測る問題では、全国や東京都の平均正答率を下回っている。 （本校…62.7%、東京都…67.1%、全国…63.8%） - 情報と情報とを関連付けたり、目的に応じて文章と図表を結び付けたりする力が弱い。 【普段の様子から】 - 学習した内容から自分の考えを組み立てることに時間が掛かったり、漢字や語彙を正しく使えなかったりするなど、言葉や文章を適切に表現することが苦手である。 - 話し合う場面では意欲に大きく差が見られ、目的や意図を汲みとって話し合うことに困難さを感じている児童が多い。	- 自分の考えを表す際には、「初め・中・終わり」の順序や話の中心や目的（理由・根拠）を意識するように指導する。また、考えを共有する時間を授業の中で設け、様々な考え方や表し方に触れられるようにする。 - 話し合い活動では、対話の仕方を確かめ、目的や意図を理解しながら、相手の話を聞いたり、自分の考えを話したりするように指導する。 - 普段の学習や家庭学習などで進んで漢字を使うよう声を掛けていき、漢字を使おうとする意識を高めていく。また、授業では言葉の意味を確かめながら進めていき、語彙力を高めていく。 - クロームブックのミライシード機能や漢字スキルなど使って、既習の漢字や言葉についての理解を深める。
算数科	【全国学力調査の結果より】 「思考力・判断力・表現力等」を測る問題では、全国や東京都の平均正答率を下回っている。 （本校…48.0%、東京都…54.4%、全国…48.3%） - 特に記述式の解答形式での正答率は低く、文章を正確に読み解く力、そしてそれを自分の言葉で説明する力が弱い。 （本校…32.5%、東京都…40.7%、全国…34/9%） 【普段の様子から】 - 計算は手順の固定化により積極的に取り組む児童が多いが、文章問題や思考力を求められる問題には消極的な態度をとる児童が多い。また、自分の考えを説明することが苦手な児童も多い。	- 問題文を丁寧に読む：文章を読んで、必要な情報にアンダーラインを入れ、何が問われているのかを理解できるようにする。 - 図や線分図を活用する：文章の内容を図や線分図で表現することで、問題の内容を理解しやすくする。 - 説明する練習をする：解き方を理解したら、説明の仕方をマニュアル化し、練習する。 - 基礎学力の定着：これまでに学習したことを復習するとともに、クロームブックのミライシードなどを活用し、理解を深め、技能や知識の定着を目指す。 - 文章を読む練習する：日常生活で積極的に文章を読む習慣を取り入れ、文章を理解する力を高めるようにする。

令和7年度 授業創造プラン